



414  
A 1096



予ヲ補助スルノ親友ナル諸君ヨ予ハ諸君  
 向ヒ予カ曾テ英高渣詢社ト交結シタ  
 ル商業ノ諸約歟ニ於テ彼レ自ラ之ヲ履  
 行セサルノミナラス或ル約歟上ニ於テハ  
 頗ル予ヲ騙欺シテ記名セシメ或ル計算上  
 ニ於テハ頗ル不分明不正実ニシテ如斯約歟  
 ヲ永存シ如斯不正実ナル彼社ニ永ク委任  
 スルニ予カ所有財産ノ最モ盛大ニシテ主重  
 ナル高島坑業ノ代辦ヲ以テスル時ハ予ハ破

長子

大正十一年四月  
大隈侯爵邸寄附



財倒産ノ困難地ニ陥ラントハ必然タルヲ見出スタリ而シテ如斯彼レカ不正実ナル如斯彼レカ不分明ナル如斯予カ困難地ニ陥ラントスル所以ヲ陳言スルニ先ク予カ當初政務ヲ放レ高務ニ従事セシ旨趣ト高務沿革ノ大畧トヲ陳述シ次テ何故ニ如斯破財倒産ノ困難地ニ陥ラントスルカ何故ニ騙欺ノ約款ヲ廢棄スルカ何故ニ計算ノ不分明ヲ明瞭ニスルカヲ開陳セントス予ハ維新ノ際ニ當リ不次登壇ニ庸ヲ被リ

位ヲ顯地ニ占メ我  
皇帝ノ殊遇ヲ蒙リタルハ予カ別ニ天稟ノ識見材畧ヲツテ如斯ノ殊遇ヲ蒙リ如斯顯地ニ位ヲ占メ得タルニアラス予カ固陋ナルモ幸ニ時尚蒙昧ニ際スルマシ材畧知幹ノ大ナル公直正明ノ質ナル人ト虽モ未タ頭角ヲ草莱ニ出ス能ハス僥倖ヲ萬分ニ遭逢シタル予カ僅ニ外國ノ事畧ヲ聞見シタルヨリ進趣ノ楮梯タルヲ得タルハ眇々ノ身ヲ省スヤ非

才竭サ、ルヲ能ハス寡聞盡サ、ルヲ能ハ  
ス猷智請對ニ至テ予カカラノ及テ限  
リハ之ヲ実地ニ試為シタルナリ  
如斯試為シタル事業ハ果シテ幾分ノ  
裨益ヲ致セシヤ幾分ノ國光ヲ振ハセシ  
ヤ予自ラ之ヲ反省スルモ嘗然トシテ記  
セス況ンヤ他ヨリ之ヲ視レハ偷位ノ誹ナ  
キ能ハカルナリ

皇帝斯ニ咎メス蒼生斯ニ愆ハス予カ僥倖  
ノ又僥倖タル実ニ自ラ怪シム而已於此

予ハ其時ノ英俊輩出スルヲ看認メタル  
故ニ直ニ如斯ノ位地ヲ避ケ罪責ノ積ツ  
テ大ナルニ至ラサルヲ希望シ其自己  
ノ地位ヲ朝ニ右ムルニ勝ヘカシムルモハ却  
テ其野ニアツテ人民統率ノ義ニ當ル可  
キヲヲ信用セリ依テ屢々其事由ヲ内  
閣ニ申請シ遂ニ予カ平生ノ素志ヲ遂ケ  
面ヲ拭フテ朝ニ立ツノ慙愧ヲ免ルヲ得  
ヘキ地位ニ退去セリ前ニ予カ内閣ニ申請  
セシ其事由ヲ細カニ説ケハ予カ菲才ナル

モ尚ヲ其時ノ高估中ニ比スレハ稍ニ眼珠  
ノ小ナラカルモノアリテマヤカ如斯高估ヲ指  
導シテ公利ヲ興サニテヲ熱望シタレハ也  
夫レ國ノ光ハ人民ノ反射ナリ人民ノ才  
識事業ノ玉ノ如キアラハ其國家ニ於ケル  
モ自然ニ價直ヲ上進ス可シ故ニ予カ平生  
ノ志ヲ解職ノ日ヨリ新シクセシモノニ非ラス  
菲才再ニ磨シ人民一般ノ公利ヲ起ス事ニ  
従事セントセシヤリ而シテ予ハ接時ニ有名  
ナル鴟池庶島屋等其他五六巨商ヨリ

定格アル資本ヲ出シ大ニ商業ヲ振起セン  
トノ依頼ヲ受ケ而シテ彼數名ノ巨商ホ約ヲ結  
シテ三百萬圓ヲ**醵**集スル基軸ヲナシ偶ニ三  
四諸族モ亦其事ヲ賛成シ結合シタル一  
大社ノ信任ニヨツテ予ハ特別ナル依頼ト推  
載トヲ受ケシハ予カ名譽言ノ最モ榮トスヘ  
キ厚運ニ到リシナリ  
前ノ如キ性質ニ依テ成立シタル一大社ハ乃  
テ蓬萊社ニシテ其着手ノ次第ヲ述フル  
ニ表面ノ順序ニ於テ募集スヘキ金額ハ

三百万円ヲ以テ計フト虫凡實際ノ取扱ヒニ  
於テ現収シタル金額ハ僅ニ拾數萬ニ過ス  
故ニ依托セラルル處ノ重任ト希望スル處ノ  
要點ト相等シカラス從テ其活動及控ノ  
機勢ヲ養就スルニ由テシ然レ凡予カ契  
望シタル一ノ方向ヲ以テ護持スヘキ大ノ行  
働ヲ為シ拮据歳以テ月ニ鬪キ大ニ其ノ  
事業ヲ當時ニ經營シ稍クニシテ其実  
額ノ徴収ヲ期スト虫凡始メ結約シテ發  
起シタル數家ハ各其出財ノ決意ヲ曾テ

予日推戴シタル赤心ト共ニセズ遂ニ三  
百萬円ノ空位ヲ以テ其約ヲ違背スルニ  
至レリ而シテ其既ニ經營セシ商務ニ  
於テ假貸或ハ納ルナリ貸補清スルニ  
期アリ止ムトヲ得ス東ニ借リ西ニ償  
ヒ右ニ取リ左ニ與ヘ遂ニ巨額ノ負債  
ヲササレヲ得サレノ地ニ至レリ而シテ  
予カ當初ノ素志ヲ達セント計リシモ如  
何セシ如斯數家ノ違約ニ因テ予カ  
厚運ニ於テ得タリシト期セシ名譽モ

俱ニ銷沈セントスルニ到リシヤリ  
名譽ノ銷沈セントスル予ハ避ルニ途ナ  
キニアラス而メ予ハ衆望ニ因テ社務ヲ  
委託セラレタル一個ノ管理人ニシテ予  
カ私有ナル財産ヲ以テ該社ヲ保助セザ  
ルハカラサルノ責任アルニアラス然レ  
比予カ一朝衆望ノ推戴ヲ受クルイテ  
感覺スル實ニ如斯困難地ヲ踐ハイト  
換ハ得タルカ如シ故ニ予ハ其避クハ  
途ヲ予自ラ之ヲ閉塞シテ更ニ途ニ

業社負債ノ清償ヲ引負ケタルハ予カ胆ノ  
何故ニ先ヲ感覺ヨリ膨大ニタルヤ予自ラ  
之ヲ高量シ能ハサルカ如シ如斯困難ノ時ニ  
際シ予カ一身ヲ委託シ此使氣ナル事業  
ヲ運轉セントセシ目的ハ百方カヲ揮フト  
虽モ孤軍援ヲ絶シ矢石俱ニ竭クルニ到リ遂  
ニ一個ノ不動産中ニ麓城シテ數多ノ敵兵ヲ  
引受ルニ至レリ  
予カ麓城シタル不動産ノ一個ハ即チ我  
政府ノ特別ナル恩惠ニ依テ保有シタル高島

石炭坑ニシテ即チ予カ權利ヲ毛髮ニ繋キ留ムハク彼ノ蓬萊社ノ負債ヲ清償スヘキ緊要ナル場所ト着做サルヲ得ス故ニ彼ノ蓬萊社ノ負債ナルモノハ總テ如斯毛髮ノ繋キ留メニ係ツテ非常ナル重カヲ委子タリ世ノ人ヨ如斯毛髮カ果シテ如斯重カヲ慥ニ繋キ留ム可キカ予ノ困難地ニ介立スルヲ推テ知ラルハキナリ

予カ此時ニ高島炭坑ヲ保有シ能ハカリシナラハ予ハ如斯巨萬ノ負債ヲ一朝推載ノ情義ニヨツテ引受クルモ如何シテ之カ責任ヲ放解スルヲ得ベキヤ最早免レ難キモノトセサルヲ得リリシヤリキ彼ノ渣洵高社ハ恰モ此時ニ際シ彼ノ蓬萊社取引上ノ攻撃ヲ以テ此戦争十分ノハヲ合圍セリ而シテ渣洵高社ハ戦勝ノ償矢ニ益ナキヲ焚眼視シ忽チ和ヲ通シ圍ヲ緩メテ高島炭坑代辦ノ事ヲ要求シ殆ント城下ノ盟ヲ爲シ償換ノ途ヲ啟通セリ

如斯代辦ノ事ヲ渣洵高社ニ年去シ得ラレ

シヨリ其勢カハ恰モ阪ヲ下ルノ車輪ニ似タ  
リ不幸ナル予ハ其車輪ノ旋轉ニ身ヲ倚  
セタルカ如シ予ハ其旋轉ニ從テ輕歩スル  
ヲ拒マントスレ凡前ニ説ク所ノ目的ニ於テ  
齟齬シタル事業上ニ更ニ天ノ又其不幸ヲ恤  
ムニ意ナキカ如ク坑中ニ火災ノ變ヲ出シ從ツテ  
又坑夫病疫ニ傳感シ嗟乎吾命夫窮矣ト  
言フヘキノ場所ニマテ蹉跌セリ於此ヤ其域  
下ノ盟約ヲ實踐セントスルニ耳ンセカル予モ  
月時ノ需用度支ノ破算計タルヨリ萬為ス

ヲ得カレノ膝行ヲ為シタリ渣洵高社ハ此ノ  
時ニ專恣ナル要求ト強壓トハ予カ終身ノ  
汚辱タルヘキ程ナレ凡予ハ事業ノ挽回ト  
名譽ノ復歸トニ熱心ニ車輪ニ凭リタル如  
手ヲ容易ニ放タリシカハコノ車輪乃チ渣  
洵高社ノ勢力ハ今日稍ニ平坦ノ地ニ底止セ  
リ予ハコノ平坦ノ地ヲ看出スヲハ其初ニ於  
自信セルモノナレハ代辦ト僱務トニ行事  
ニ對シ予カ不満足ハ今日ニ於テ高聲ニ之ヲ  
説キ出カレヲ得ヌ



世ノ人ハ予カ如斯困難ヲ姑息ニ緩クセシカ  
為メニ彼ノ渣洵高社ノ代辦ト償換シタル  
ハ予カ平等ノ權利ヲ以テ指囑シ得タル  
モノト着做ス可キヤ否予ハ實ニ其実況  
ニ於テ喉ヲ扼シテ背ヲ拊スルノ場合ニ立到  
リシナリ如何トナレハ予カ代辦ノ事ヲ彼ノ渣  
洵高社ニ委託スルハ時猶火災ノ隣房ニア  
ツテ廂廡ノ方ニ火焰ニ焦セラレタルカゴト  
シ倉庫ヲ閉テ障泥ヲ塗ル等ハ瞬間ニ要  
セサルモノアラザリヤ而シテ如斯火災ノ廂廡

ニ熄ム可キカ或ハ倉庫ニ及フ可キカヲ高  
量シ能ハザリヤ場合ナリキフハ世人モ今  
ヨリ之ヲ推考セララルベキフナラン幸ニシテ  
倉庫ヲ救フフヲ得ルニ至ツテ焚蕩ノ餘  
燼蒼皇撲滅ノ勞カヲ償フニ到リシモ如斯  
倉庫内ノ貨物ハ推テ之ヲ東西ニ云ルテカ  
ルヲ得サルナリ予ハ倉庫ノ貨物乃チ高  
島坑ノ石炭ハ其標量以テ前失ヲ償フ  
ニ足ルモノト自信シ及ヒ世ノ公論ニ於テ巨益  
アルモノト着認メラルベキモノト憑依セリ

若シモ如斯貨物カ前矢ヲ償フニ足サルモノ  
ナルモ他財産ノ以テ如斯前矢ヲ償フヘキ  
モノナケレハ誰カ此倉庫ノ鎖鑰ヲ大切ニ守  
持セサルモノアラシヤ又タ其鎖鑰ヲ假ニ人  
ニ保監セシムルモ亦誰カ之ヲ自ラ守持シ得  
ヘキヲニ希望セサルモノアラシヤ況ニヤ予  
ハ殆ト其守持ノカヲ出ス能ハガルカ如キ  
カ故ニ直ニ我 政府ノ保護ト恩惠トヲ  
仰キ罪責ヲ列イテ以テ其守持ノ權利ヲ挽  
回セントスルナリ

予カ此ニ開陳スルモノハ渣詢商社ニ於テ  
予カ代辦ヲ為ス為メニ強壓シテ記名セシ  
メタル最初ノ条約及ヒ爾後ノ条約等  
其他ノ往復シタル信書此事ニ關係シ  
タル一切ノ書類及ヒ簿冊ヲ文字上ニ於  
テ發見セララルヘキ事理ノ外更ニ之レカ  
實況ト情義トヲ述フルモノナリ  
斯ニ家ニ嚴父母ヲ其見外ニ出テ  
屢々侮辱ヲ他人ニ受ケ自ラ欲スル所  
ヲ行事ヲ妨碍セララル其見自己ノ權利

ヲ保ロントスルカ之ト玩闘セサルヲ得ス  
之ト玩闘セントスルカ父母ノ嚴訓常ニ爭  
闘ヲ禁ス如斯場合ニ於テ世人ハ必ス如斯  
兇ニ告テ云ハシ氣ノ毒ナル兇ヨ假令常ニ  
父母ノ嚴訓アリト虽モ父母豈如斯汝  
ノ侮辱ヲ受ルヲ欲スルモノナラニヤ今  
ヤ汝ハ如斯情状ヲ父母ニ懇ヘ汝ノ安寧  
ヲ保テ汝カ行事ノ妨碍ヲ除去スヘキ  
ヲ希圖シテ宣シク汝ノ權利ヲ暢達ス  
ヘキナリト親友ナル諸君ヨ今予カ介立ス

ル地位ハ殆ント如斯兇ト其情況ヲ同ス  
ルモノアルヲ察セラレヘキナリ而メ予  
カ先キニ倉庫將サニ燒ケントスル際ニ所  
謂城下ノ盟ニ於テ強壓セラレテ記名シ  
タル約款或ハ爾後急厄中ニ於テ交結  
シタル約款等或ハ父母ノ嚴訓即チ我  
政府ノ法令ニ抵觸出入セシモノナキヲ保ス  
ヘカテスト虽モ予豈之ヲ父母ニ懇ヘ又予  
カ權利ヲ申暢シ予カ財産ノ安全ニ保  
タラニヤ 前ニ陳述セルカ如ク當

時渣詢高社ト交結シタル諸約款ハ總テ  
勢力抗衡スヘカラガル要求ト予カ己  
ムヲ得サル需要ニ於テノ懇請トコノ二ツ  
ノ場合ニ於テ偷ニ彼レカ跳梁ヲ忍視セ  
ルモノニシテ簿冊彼レカ專賣ニ任ス其ノ  
計算ヲ明瞭ニスルヲ得ス然レ凡如斯簿  
冊ヲ精査シ如斯計算ヲ明瞭ニスルヲ  
得シナラハ予カ渣詢高社ニ於テノ貸  
稱ハ己ニ全ク其義務ヲ免ルヘキモノト  
明言セララルヘキナリ

專恣ナル渣詢高社ハ予ニ對シテ不正  
實ナル不公平ナル勘定ヲ以テ予カ貸  
稱ノ責任ヲ遂ニ永劫ニ脱スルヲ得サル  
ノ點計ヲ設クルモノナリ予ハ五十余萬  
ノ銀兩ヲ以テ予カ一身ノ權利ヲ罔羅  
セラレ遂ニ破財倒産シテ困難立ツヘ  
カラガルノ場所ヘ進入スルヲ好マス  
予ヲ補助セララルノ親友ヨ予カ今般ニ  
於テ渣詢高社ニ代辦ノ事ヲ依托スルヲ  
停止スルノ目論見ハ不正實不公平ナル

渣洵商社ニ對シ相當ナル處分ナリト思  
考セララル、ナル可シ予ハ精覈ナル勘定  
ニ於テ其實算ヲ會得スルナラハ綴令ソ  
ノ負債金額ノ既済ニ至ラサルモ予ハ渣  
洵商社ニ對シ不正実ト不公平トヲ督責  
シ予カ財産ノ安全ヲ保ツフヲ要スルノ  
ミニシテ決シテ故ナク負債償還ノ途ヲ拒  
絶スルニアラスト虽凡渣洵商社ニ於テ從  
未精査ト調覈トヲ一度モ予ニ會得スヘキ  
程ノ熟覽ヲ興ヘス且ツ一切計算上ノ協

議ニ於テ公平ナル談判ヲ受ケサリシナ  
リ  
予カ當初城下ノ盟ニ於テ交結シタルニ  
様ノ約款ハ各英文ノミニシテ予カ記名  
スル以前ニ於テ予ハ之ヲ日本文ニ譯述  
シ之カ旨趣ヲ會得シタルニ非ス唯記名  
當日ニ於テ其概意ヲ讀ミ、聞サレタルノ  
ミナリ如斯讀ミ聞サレタル約款ニ記名セ  
シ後之ヲ翻譯シテ熟覽シタリシニ最初  
讀ミ聞カサレタル時ノ文意ト其旨趣ヲ異ニ

セシモノ多カリシナリ而メ其二様ノ約款ハ即チ  
千八百七十五年七月一日ニ文結モタルモノニテ  
其一ハ高島炭坑代辦ノフノミニ関スルモノ  
其一ハ高島炭坑代辦ニ関シテ種々ノ契約ヲ  
ナセシ内容ノ約書ナリ予ハ如斯約款ノ永存  
スルヲ欲セサルヲハ前条未陳述セルカ如  
クニテ且屢々如斯約款ヲ改正セシヲ彼ノ  
社ニ通知請求セシト虽凡彼社ハ更ニ之ヲ  
諾セサリシナリ

予ハ如斯代辦ノ事ヲ停止シ如斯約款ヲ

廢絶セントス而メ予カ赤心ハ先キニ他人  
ニ侮辱ヲ受ケ歸ツテ之ヲ父母ニ懇フルモ  
ノト其情況ヲ同フセリ父母即チ我  
政府ノ法令ニ於テ果シテ予カ呵責ヲ免  
レ得ヘキヤハ信認シ能ハサルアリト虽  
凡予カ此ノ行事ノ適當ナルヲハ予カ  
先キニ熱望セル素志ヲ暢達セシムヘ  
キ補助ノ要點ニシテ之ヲ親友ナル諸  
君ニ縷述シテ懇囑セサルヲ得ス予  
ハ曩ニ明治佐命ノ班ヲ汚瀆シタル

罪アリ今ヤ高估ノ遠籍ニ入り亦却テ  
父母ノ心思ヲ費ヤカシム予カ罪劫ヤ果  
シテ何日ニカ消滅セントスルカ而カモ予  
ハ先素志ヲ達セントスルヲ熱望スルカ故ニ  
断然渣洵高社ノ不正實ニ分明ナル所業  
ヲ嚴督シ予カ感大ナル及ヒ主重ナル財産  
ノ回復ヲ量ラントス予ヲ補助スル親友  
ナル諸君ヨ予カ開陳スル處ノ萬分ヲ  
諒セヨ